

## 学校経営のポイント

### 多発した事件を教訓として来年を睨む

若井 彌一

すでに多くの学校では「冬休み」に入っていることと思われる。21世紀の始まりの1年も、残すところ数日となった。

新しい世紀の始まりの年ということで、なにがしかの期待をこの1年に抱いた人が多かったであろうが、内外ともに次から次へと事件が発生し、気づいてみれば年の暮れである。

都々逸ふうに表示すれば、“内外ともに 事件続いた 世紀始めも 年の暮れ”ということになるのか。

#### 内外ともに事件多発の1年

数ある事件の中でも、やはり特筆すべきは9月11日に発生したニューヨークでの世界貿易センタービル爆破事件と、その後のアメリカ軍等によるアフガニスタンのタリバン勢力等への軍事攻撃であった。

わが国も、この事件と関連して、今後の国際的テロ行為に対応するためのいわゆる「テロ対策特別措置法」の制定等、テロ関連三法の制定に踏み切った。

そして、11月25日には、補給艦「とわだ」、掃海母艦「うらが」、護衛艦「さわぎり」がそれぞれ海上自衛隊呉基地、横須賀基地、佐世保基地から出航し、現在任務に就いている。戦闘地域での活動はしないことになってはいるものの、自衛隊の活動が新たな段階に突入することになったことは明白である。

国内的にみれば、統計上のこととは言えども、自殺者の数が3年連続で3万人を超えたことを挙げなくてはならない。多くは経済的な行き詰まりを苦しめての自殺である。

“生きる力”の育成は、児童・生徒の教育上の重要課題であるにとどまらず、日本国民全体の課題でもある。

#### キーワードは“危機管理の自覚と実践”

学校の外だけで事件が発生しているわけではない。6月に、大阪教育大学附属小学校で8人の児童が刺殺された事件が教育関係者（行政関係も含む）に対して与えた衝撃の大きさは、形容しがたいほどである。

多くの場合、予想もしない事件が発生すると、直後には「どうして、こんなことが！」と感情的な反応が支配するが、その後は同類の事件を防止するためのあれこれの対応策を考え、それを実行に移していくようになる。

重要なのは、自分が直接の当事者となっていない事件を、もし自分が当事者であったならどうしていたか、また、どうすべきなのかと主体的に考える、いわば「危機管理」の自覚をもって日常的な教育実践や学校経営を捉え直す積極的な姿勢である。

身に降りかかる危機にも、まったく突然襲ってくるものと、徐々にしかし確実に深刻さの増すものと、2つのタイプがある。

どちらの場合をも想定して、自分ならばどう対応するかを考え、来るべき1年に備えることにしたい。

(わかい・やいち=上越教育大学教授)

#### キーワードは“教師”と“子ども”！ “読本シリーズ”最新刊 好評発売中

- 『『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円
- 『『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円
- 『『指導力不足教員』読本』八尾坂修編・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます  
http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp